
令和4年度

桐蔭学園 高等学校 学力検査問題

国 語

令和4年2月11日 施行

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 机の上には、鉛筆・消しゴム・受験票・座席券・時計以外のものを置いてはいけません。受験生どうしの貸し借りもできません。また、机の中には、自分のマークシート冊子以外、何も入れてはいけません。
3. 携帯電話は、必ず電源を切って、かばんの中に入れておいてください。
4. 問題冊子の印刷が見えづらかったり、ページが不足したりしている場合、また、鉛筆を落としたり、体の調子が悪くなったりした時は、だまって手をあげてください。
5. 問題冊子の余白などは、自由に利用してかまいませんが、どのページも切りはなしてはいけません。
6. 問題は22ページまであります。
7. 問題冊子は持ち帰ってください。

第一問

次のA～Fの各文について、傍線部のカタカナと同じ漢字を用いるものを、それぞれの選択肢の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

A 彼の発言のイトがわからない。

1. 寄付を求めるシユイ書をつくる。
2. 生物進化のきっかけは突然ヘンイだ。
3. 気がつくくと野犬の群れにホウイされていた。
4. 新しい病原体がモウイをふるっている。

B 受賞を記念してコウエンをおこなう。

1. 雨天のためにイベントはエンキします。
2. ネットでの不用意な発言がエンジョウを呼んだ。
3. エンガン漁業を振興させる。
4. 注目を集めるためのエンシュツをねらう。

C 両者の取引をチュウカイする。

1. その一打はカイシンの当たりのホームランになった。
2. 彼は高校時代はカイブツといわれた選手だった。
3. 高齢者のカイジョの仕事に就く。
4. もう少し努力すればよかったとカイコンにくれる。

D 逃亡していた犯人をケンキョした。

1. 意見のある人はキョシュをお願いします。
2. 城をキョテンに勢力拡大をはかった。
3. キョダイな古墳に昔をしのぶ。
4. 彼の申し出をキョゼツしてしまった。

E 用意のできた人からジュンジ帰宅してよい。

1. 役員に選出されたがジタイした。
2. 選挙でジテンで当選には及ばなかった。
3. ジヒ出版で新しい説を述べる。
4. 珍しいことだとジモクを集めた。

F メイシンにとられない理性的な思考。

1. ヒメイが聞こえたのでその方向にかけつけた。
2. 未来に確信がもてずにコンメイしている。
3. 強力な相手にドウメイを組んで立ち向かう。
4. その経験は天からのシメイだと自覚して行動した。

第二問 次の文章はアイデンティティ（「私がどんな人なのかというイメージ」のようなもの）について書かれた本の第1章

である。これを読んで、後の設問に答えなさい。

① 私たちは、人と関わり合うことで、その時々さまさまなアイデンティティを表現している。すると、「その時々」、つまり、だが、どういう状況で、いつ、だれと関わり合っているかを細かく調べることが、とても重要になってくる。

そして、このように細かな分析が行われた結果、アイデンティティ自体にも異なる側面を区別できることが分かってきた。ひとつは、年齢、ジェンダー、国籍や人種、社会階級のように、その社会全体で広く受け入れられている^{※1}マクロなアイデンティティだ。例として、「若い」「男らしい」「日本人」「中流」が挙げられる。

二つ目は、ある集団に特定のメソ（マクロとミクロの間）のアイデンティティだ。たとえば、ある中学では、部活に所属している「部活生」と所属していない「帰宅生」が区別されているとすれば、「部活生」と「帰宅生」は、この中学という集団に限って使われるメソなアイデンティティとなる。

最後に、会話のやり取りの中の、ミクロなアイデンティティだ。どんな会話でも、話し手には、その場面に特有の役割がある。たとえば、生徒の発表を聞いて点数を付ける先生は、「評価者」というアイデンティティを「行っている」。また、冗談を言ってみんなを笑わせてくれる人には、しばしば、「ムードメーカー」というアイデンティティが与えられる。さらに、失恋した友だちから相談を受けるときには、「聞き役」というアイデンティティを引き受ける。

重要なのは、実際の会話では、これらの異なるアイデンティティの側面が同時に表現されるという点だ。同時に表現されることで、互いが混ざり合う。つまり、この三つの側面は、実際にははっきり区別することはできないのだ。

また、場面によっては、異なるアイデンティティの側面が強調される。たとえば、普段日本にいるときには、自分が日本人であることをそれほど意識することはない。ところが、海外に行つて日本に関する質問に答えるときなど、日本人の代表になつたように感じられ、「日本人」としてのアイデンティティを意識する。また、中学校で登下校時刻についての話し合いがあると、朝練や放課後の練習をしたい「部活生」と、そうでない「帰宅生」のアイデンティティが表面に出てくるだろう。

それでは私たちは、どのようにしてアイデンティティを表現するのか。何もないとこから表現することはできない。材料が必要である。②アイデンティティ表現に利用することができる材料は、無限にある。なぜならば、意味を表すものならば、何でも利用できるからだ。

悲しいかな人間は、「アイデンティティ」のような抽象的イメージを直接伝えあうことができない。音や形、色や味、手触りなど、五感で認識できるものを通して表現しなければならぬ。だから、音や形を持ったものに意味を結び付けて、お互いに音や形を交換することで意味を伝えようとするのだ。

記号論という分野では、このように音や形、色が意味と結び付いているものは、すべて「記号」とみなす。ことばも記号のひとつになる。トイレの入り口にある絵は〈女子トイレ〉や〈男子トイレ〉という意味を示す記号であり、学校の制服も〈学校の生徒〉という意味を示す記号だ。人間が意味を表現するために利用するのは「記号」としてとらえる視点は、広告や雑誌のように視覚イメージが多用されているものを賢く理解する「^{※2}メディアリテラシー」を身に着けるためにも有効だ。

服装や髪型、しぐさや姿勢なども、それが〈意味〉と結び付いていれば、アイデンティティを表現するための材料になる。「セーラー服」を、その人が〈女子高校生〉であることを示すために利用するのは、すでに「セーラー服」という服装と〈女子高校生〉のアイデンティティが結び付いているからである。この意味では、③服装や髪型も「ことば」と類似した働きをしている。

そのなかでも、「ことば」は、もつとも体系化され、だれもが利用することのできる材料である。まさに人間が、音声や文字という具体物を通して意味を表現する「言語」を発達させてきたゆえんである。

通常、「ことば」は、何かの内容を人に伝えるために使われると考えられている。もちろん、情報を伝えることは「ことば」の重要な働きのひとつだ。それに加えて、「ことば」には、アイデンティティを表現する材料としての働きもある。

私たちが人とコミュニケーションをするときには、同じ内容を伝えていても、言葉づかいを使い分ける。それは、話している内容以外のさまざまな情報を「ことば」を使い分けることによって伝えていくからである。

その中には、自分をどのような人物として造形するのか、相手をどのような人物として扱っているのか、あるいは、会話の中に登場している人をどのような人物として言及しているのかなどの情報も含まれている。④会話に関わるさまざまな人物を

「ことば」を使い分けることによって造形しているのである。これが、「ことばはアイデンティティ表現の材料だ」という意味だ。

アイデンティティ表現の材料としてもっとも分かりやすい例は、先に挙げたマクロなレベルのアイデンティティを指す「ことば」だ。たとえば、「日本人」ということばを使って「私は日本人です」と言えば、「日本人」というアイデンティティを表現できる。反対に、「日本人」という「ことば」がないと、このように簡単には「日本人」というアイデンティティを表現できない。社会で広く認められているアイデンティティには、表現しやすいように、それを示す「ことば」がつくられるのだ。また、日本では「日本人なら日本語を話すはず」という考え方が根強いので、日本語を話しているだけで、「日本人」というアイデンティティを表現できる場合も多い。外国の街角で日本語が聞えてくると、「あつ、日本人だ」と思う。「日本語」全体が、アイデンティティの材料になるのだ。

さらに、細かいことばでは、「人称詞」や「文末詞」を挙げることができる。人称詞というのは、「わたし」や「あなた」のような人を指すことば、文末詞というのは、「です」「ます」「だ」のような、文の最後に来ることばを指す。

人称詞の例で言えば、自分のことを「ぼく」と呼ぶか、「わたし」と呼ぶかで、話し手が表現している自分のイメージはいぶん違ってくる。相手のことを「○○さん」と呼ぶか、「○○ちゃん」と呼ぶかで、自分と相手の関係も異なる。また、会話に登場した人を「あの人」と呼ぶか、「あいつ」と呼ぶかでも、その人物の造形が変わってくる。

同じように、文末詞も、「今、何時？」と聞かれて、「八時」と答えるか、「八時です」、**A**、「八時だ」と答えるかで、相手との関係が全く違う。「八時」だと、ざっくりばらんな親しい関係、「八時です」だと、ていねいだけど、少し距離のある関係、「八時だ」だと、上から目線の関係とでも書き表せる。相手との関係によって、自分の相手に対するアイデンティティも異なってくる。

B、これらの例で、異なる文末詞によって表現される相手との関係をはっきり決めることができなかつたように、実際に相手との関係の中で、話し手がどのようなアイデンティティを表現しているのかを知るには、「です」「だ」のような個々のことばだけではなく、使われている場面や会話の目的などの状況、さらに、話し手が使っている他のことばも考慮する必要がある。

また、第4章で詳しくみるように、アイデンティティを表現する材料として使われるのは、個々のことばだけではなく、それらが集まった「○○ことば」であることが多い。C、「あたし」という人称詞や「くだわ」という文末詞などが集まった言葉づかいは、「女ことば」と呼ばれる。典型例には、「あら、あたし嫌だわ」のような話し方が挙げられる。

「○○ことば」の中には、具体的な人物像、D、アイデンティティと結び付いているものがある。「女ことば」の場合で言えば、〈ひかえめで、丁寧で、女らしい女性〉や〈中年の主婦〉、あるいは、〈高飛車なお嬢さま〉という人物像を想起させるかもしれない。本書では、「○○ことば」がアイデンティティ表現に使われる例として、敬語、方言、女ことばを見ていく。

このように、アイデンティティ表現の材料として利用されることばは^⑤「言語資源」と呼ばれる。

「言語資源」という概念は、ことばを話し手から切り離して、だれでも使える「アイデンティティ表現の材料」としてとらえなおす。

これまでの考え方では、ある人がていねいな言葉づかいをするのは、その人が謙虚な人だから、つまり、〈謙虚な人〉なので、「ていねいな言葉づかい」になったと考えた。しかし、「ていねいな言葉づかい」をだれもが使える言語資源とみなすと、謙虚な人でもおうへいな人でも、時と場合にに応じて「ていねいな言葉づかい」をだれもが使える言語資源とみなすと、

人と関わり合う前から〈謙虚な人〉や〈おうへいな人〉がいるのではなく、同じ人でも、「ていねいな言葉づかい」をしないかによって、〈謙虚〉になったり〈おうへい〉になったりする。私たちは、^⑥時と場合にに応じてさまざまな言語資源を駆使することで、さまざまなアイデンティティを持った人間として立ち現われ、また、さまざまな人物を造形することができるのだ。

ことばを「言語資源」とみなす視点が重要なのは、私たちは、自分のアイデンティティと結び付いているわけではない言葉づかいを使って、同時に複数のアイデンティティを表現するときがあるからだ。

たとえば、第6章では、若い人が、自分の属していない地域の代表的な言いまわしをメールなどで用いる「方言コスプレ」を取り上げている。京都出身ではない人が「おいでやす」などと使う例だ。

このような例を説明するには、あらかじめ〈京都出身〉というアイデンティティを想定して、このアイデンティティにもと

づいて「おいでやす」を使うという本質主義では説明ができない。

むしろ、「おいでやす」はアイデンティティ表現の言語資源として広く共有されており、どここの出身の人でも「おいでやす」を使って京都弁に付随する〈女らしさ〉や〈はんなりさ〉のようなアイデンティティを表現していると考えられるべきだろう。

このように自分が所属していないグループのことばを使う例は、「ことばの越境」と呼ばれ、世界中で観察されている。

（中村桃子^{なかむらももこ}『「自分らしさ」と日本語』より）

※1 マクロ …… 全体的な立場から考えること。

※2 メディアアリティシー …… 情報を正しく活用する能力。

問1 本文中の空欄A～Dに当てはまる語の組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- | | | | | |
|----|--------|-------|--------|--------|
| 1. | Aーたとえは | Bーつまり | Cーあるいは | Dーしかし |
| 2. | Aーあるいは | Bーしかし | Cーたとえは | Dーつまり |
| 3. | Aーあるいは | Bーつまり | Cーたとえは | Dーしかし |
| 4. | Aーたとえは | Bーしかし | Cーつまり | Dーあるいは |

問2 傍線部①「私たちは、人と関わり合うことで、その時々さまさまなアイデンティティを表現している」とありますが、アイデンティティについて説明したものとして最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. アイデンティティは、社会に広く受容されているマクロ、特定の集団の中でだけ受け入れられているメソ、会話のやり取りの中のミクロという三種類の区別が存在し、どれも同時に発現しつつ、異なる側面を区別することが可能だが、場面によって強調されるアイデンティティは異なっていることに注意が必要なものである。
2. アイデンティティは、年齢やジェンダー、所属する集団、会話のやり取りといった三種類の側面のうち、場面によって強調されるものが変化することに注意が必要で、なおかつ、これらの異なるアイデンティティが同時に表現されて混ざり合うため、十分気を付けて区別する必要があるものである。
3. アイデンティティは、その時々に関わり合っているかを細かく分析した結果、マクロ、メソ、ミクロの三種類のアイデンティティがあることが分かったが、実際の会話の場面では異なるアイデンティティが同時に表現され、区別がつかないことも多くあり、混ざり合うこともあるため、実際には三種類以上のアイデンティティの区別が存在するものである。
4. アイデンティティは、社会全体のマクロ、社会の中の特定の集団のメソ、会話の場面の中のミクロ、という異なる三つの側面を区別することができるが、これらは厳密に区別できるわけではなく、同時に表現される中で混ざりあうこともあり、場面ごとに異なるアイデンティティが強調されるものである。

問3 傍線部②「アイデンティティ表現に利用することができる材料は、無限にある」とありますが、なぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. アイデンティティは直接伝えることはできないが、意味と結びついたさまざまなものを媒介としてそれを伝えることができるから。
2. アイデンティティは直接伝えることができないので、視覚的記号に頼る以外の方法はないが、その種類がたくさんあるから。
3. アイデンティティは多くの側面を同時にもっているため、伝えようとする時に、その組み合わせは多様な可能性を持っているから。
4. アイデンティティの多くの側面を同時にあらわすためには、もともと複合的な意味をもっているものを使う必要があるから。

問4 傍線部③「服装や髪型も『ことば』と類似した働きをしている」とはどういうことですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 服装や髪型も、「ことば」と同じように、それらを記号として用いることによってコミュニケーションをとることが可能になるということ。
2. 服装や髪型も、それぞれが意味と結びついて機能していれば、「ことば」と同じようにアイデンティティを表現することができるということ。
3. 服装や髪型も、アイデンティティと強く結びついており、「ことば」と同じように、記号論の体系とは無関係に利用できる材料になっているということ。
4. 服装や髪型も、しぐさや姿勢、「ことば」の使い方と強く結びついており、服装や髪型によってどのような「ことば」を使うかが判断できるということ。

問5 傍線部④「会話に関わるさまざまな人物を『ことば』を使い分けることによって造形している」とありますが、ここでその具体例としてあてはまらないものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 外国の街角で日本語を話すことで、日本人というアイデンティティを表現すること。
2. 「だ」「です」のような文末詞をつかって、自分の話し相手との関係を表現すること。
3. 会話に登場する人を「あの人」と呼ぶか、「あいつ」と呼ぶかでその人の人物像を表現すること。
4. 京都出身でない人が京都弁を使うことで、女性らしさのアイデンティティを表現すること。

問6 傍線部⑤「言語資源」とありますが、この表現を用いた筆者のねらいの説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. ことばを、アイデンティティの表現としてとらえ、話し手から切り離すことで、いかにして私たちがさまざまなアイデンティティを持った人間として立ち現れているかを考察し、さまざまな人物を造形するためにも多くのことばを身に着ける必要があるのだということ論じようとしている。
2. ことばを、アイデンティティを表現する際について回る避けられないものとしてとらえるために、話し手とことばを一度切り離すことを試みることによって、さまざまなアイデンティティを持った人間として立ち現われる私たちにとって、話し手とことばとアイデンティティが固く結びついていることを改めて論じようとしている。
3. ことばを、アイデンティティを表現するために利用される道具としてとらえた上で、ことばを話し手から切り離すことによって、場面に応じてことばを使い分けることで、あえて自分の属性とは異なるアイデンティティを表現する場面があるということ論じようとしている。
4. ことばを、アイデンティティの表現の材料としてとらえると、話し手の実情をとらえられなくなってしまうことを指摘するために、謙虚な人でなくても時と場合に依拠していねいな言葉づかいをする例をあげ、ことばをアイデンティティを表現する材料としてとらえることの問題点を論じようとしている。

問7 傍線部⑥「時と場合に応じてさまざまな言語資源を駆使する」とありますが、その具体例として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 自分が〈謙虚な人〉であることを相手に印象づけるために、いねいな言葉づかいを意識的に使うこと。
2. 「わたし」という一人称を使うことで、自分が中年の女性であることを強調しようとする事。
3. 〈おうへいな人〉はそれにふさわしい尊大で人を見下すような言葉づかいを自然と選んでしまうこと。
4. 「おいでやす」という言葉づかいが、京都では女らしさをあらわす表現として定着していること。

問8 この文章の内容にあてはまるものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. ことばの使い分けでさまざまな人物を造形できるのは、ことばとアイデンティティとは結びついているという意識が共有されていることに基づいている。
2. ことばはその人のアイデンティティと深く結びついているので、自分の状況とあわないことばを使うと、聞き手に違和感をもたせてしまうおそれが生じる。
3. 髪型や服装でもアイデンティティが表現できるのだから、ことばに頼ってアイデンティティを表現しようすると、相手はことばと服装のどちらで判断してよいのか迷ってしまう。
4. 同一人物でも相手によってその人がどんなアイデンティティをもつかのイメージが変わるように、同じことばでも、相手によって受け取るイメージは異なっている。

問9 この文章における論の進め方として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 筆者はまず、一般的なアイデンティティの定義について確認し、日常生活の中でアイデンティティを表現しようとする際には、ことば以外にも様々なものがありうることを取りあげて、それらを「言語資源」という概念で一括りにしようとしている。
2. 筆者はまず、アイデンティティのいくつかの側面について述べ、そのうちの一つの側面について考察を深めることで、アイデンティティの表現についてはことばによるものが最も体系的であると結論付けたうえで、「言語資源」という観点からことばを分析している。
3. 筆者はまず、アイデンティティは一つではなく多様であることを指摘したうえで、それを表現するにあたっては、ことばを用いることが最も適切であると主張し、その理由を記号論を用いて論証しながら、「言語資源」という概念を導き出している。
4. 筆者はまず、アイデンティティの多様な側面について述べた後、どのようにアイデンティティを表現するのかという問題提起をし、特にことばに注目して、ことばによるアイデンティティの表現を「言語資源」という視点からとらえようとしている。

第三問

次の文章は、『今昔物語集』の一節で、昔、ある男が旅をしていた時に、雨が降ってきたため、近くにあった墓穴（古墳の横穴）で雨宿りするうちに夜になってしまった、というのに続く場面である。これを読んで、後の設問に答えなさい。

雨はやまず降りければ、「こよひばかりはこの墓穴にて、夜を明かさむ」と思ひて、奥さまを見るに、広かりければ、いとよくうち休みて寄りゐたるに、夜うち更くるほどに聞くに、もの入り来たる音す。暗ければ何ものとも見えず、ただ音ばかりなれば、「これは鬼にこそはあらめ。早う、鬼の住みける墓穴を知らずして、立ち入りて、こよひ命を亡ぼしてむずること」を心に思ひ嘆きけるほどに、この来たれるもの、ただ来たりに入り来たれば、男、「怖ろし」と思ふこと限りなし。しかれども逃ぐべき方なければ、傍らに寄りて、音もせでかがまりゐたれば、このもの近く来たりて、まづ物くはり下ろし置くなり。次にさやさやと鳴る物を置く。その後居ぬる音す。これ、Xの気色なり。

この男※₂下衆下なれども、※₃おもばかりあり心賢かりけるやつにて、これを思ひめぐらすに、「これは、人のものへ行きけるが、雨も降る、日暮る、我が入りつるやうに、この墓穴に入りて、先に置きつるは、持ちたりけるものをはくと置きつる音なめり。次には※₄蓑みのを脱ぎて置く音の、さらさらとは聞こえつるなめり」と思へども、なほ、「これはこの墓穴に住むYなめり」と思へば、ただ音もせで、耳を立てて聞きゐたるに、この今来たる者、男にやあらむ、法師にやあらむ、童わらわにやあらむ、※₃知らず、人の声にて言ふやう、「この墓穴には、もし住みたまふ神などやおはする。さらばこれ※₃召せ。おのれはものへまかりつる者の、ここを通りつる間に、雨はいたう降る、夜は更けぬれば、こよひばかりと思ひて、この墓穴に※₅入り候まをふなり」と言ひて、ものを祭るやうにして置けば、もとの男、その時にぞ少し心落ちゐて、「※₄さればこそ」と思ひ合はせける。

さてその置きつるものを、近きほどなれば、ひそかに「何ぞ」と思ひて、手を指しやりて探れば、小さき餅もちを三枚置きたり。されば、もとの男、「まことの人の、道を行きけるが、持ちたるものを祭るにこそありけれ」と心得て、道をば歩き

※⁵こうじて、ものの欲しかりけるままに、この餅を取りてひそかに食ひつ。

今の者、しばしばかりありて、この置きつる餅を探りけるに、なし。その時に、「まことに鬼のありて、食ひてけるなめり」と思ひけるにや、男にはかに立ち走るままに、持ちたりつる物をも取らず、蓑笠かさをも棄てて^⑤走り出でて去りぬ。身のならむやうも知らず逃げて去りければ、もとの男、「さればこそ、人の来たりけるが、餅を^⑥食ひたるに、恐ぢて逃げぬるなりけり。よくぞ食ひてける」と思ひて、この棄て去りぬるものを探れば、もの一もの入れたる袋を、鹿しかの皮をもつて包みたり。また蓑笠あり。「※⁶美濃みの辺りより上りけるやつなりけり」と思ひて、「もしうかがひもぞする」と思ひければ、未だ夜のうちに、その袋をかき負ひて、その蓑笠をうち着て、^⑦墓穴を出でて行きけるほどに、「もしありつるやつや、人里に行きて、このことを^⑧語りて、人などを※⁷具して来たらむ」と思ひければ、はるかに人離れたるところに、山の中に行きて、しばらくありけるほどに、夜も明けにけり。

その時にその袋を開きて見ければ、絹、布、綿などをひと物入れたりけり。思ひかけぬことなれば、「天のしかるべくて給へる」と思ひて、喜びて、それよりなむ行きけるところへは行きにける。思わぬ所得したるやつかな。今の奴やつは逃ぐる、もつとも理ことわりなりかし。げに誰たれも逃げなむ。もとの男の心いと^⑨むくつけし。

このことはもとの男の老いの果てに、妻子めかけの前に語りけるを聞き伝へたるなり。今のやつは遂つひに誰とも知らずやみにけり。されば心賢きやつは、下衆なれども、かかる時にもよろづを心得て、よく振る舞ひて、思ひかけぬ所得をもするなりけり。さるにてももとの男、餅を食ひて、今のやつの逃げにけるを、いかに「をかし」と思ひけむ。希有けうゆうのことなればかくなむ語り伝へたるとや。

- ※1 くはり …… 物を置く音。三行後の「はく」も同じ。
- ※2 下衆^{げす} …… 身分の低い人。
- ※3 おもばかり …… 思慮。
- ※4 蓑^{みの} …… 雨を防ぐために身に着けるもの。
- ※5 こうじて …… 疲れて。
- ※6 美濃^{みの} …… 今の岐阜県。
- ※7 具して …… 引き連れて。

問1 二重傍線部(a)と(d)の動作の主語として適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。ただし、同じ番号を二度以上選んでもよい。

1. もとの男
2. 今の者
3. 鬼
4. 神

問2 傍線部①「思ひ嘆きける」とありますが、男は何を思ひ嘆いたのですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 鬼の住んでいる墓穴とそうでない墓穴をしつかりと見分けることができなかつたということ。
2. 鬼であってもそうでなかつたとしても、ここに来る者は自分の命を脅かすだろうということ。
3. 鬼を退治するために、その姿を照らし出すことのできる明かりを持っておけばよかつたということ。
4. 鬼の住むところと知らずに入ったために、きっとここで死んでしまうのだろうということ。

問3 傍線部②「音もせでかがまりゐたれば」とありますが、男はどうしたのですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 墓穴に入ってきたものに見つかる前に相手をおどかして身を守ろうとした。
2. 墓穴に入ってきたものがあまりに恐ろしいので、気づかれないように身をひそめようとした。
3. 墓穴に入ってきたものから逃れるすべを失って、生きた心地がせず、気を失ってしまった。
4. 墓穴に入ってきたものに気づかれた時のために、場所を譲ろうとした。

問4 本文中の空欄X・Yに入る語の組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- | | | |
|----|--------|--------|
| 1. | X 人 | Y 鬼 |
| 2. | X 人 | Y 神 |
| 3. | X 鬼 | Y 人 |
| 4. | X 鬼 | Y 神 |

問5 傍線部③「知らず」とありますが、何を知らないのですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. どのような人が出て行ったのか、ということ。
2. どのような人が埋葬されているのか、ということ。
3. どのような人が入ってきたのか、ということ。
4. どのような人が聞いているのか、ということ。

問6 傍線部④「さればこそ」とは「思った通りだ」という意味ですが、このとき男はどのようなことを納得したのですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. あとから入ってきたものが立てていた物音や言動から、鬼が来たのではなかったということ。
2. あとから入ってきたものは、誰かが先にこの墓穴に入っていることを知っているとということ。
3. あとから入ってきたものはお供え物を並べたので、自分を神とかん違いしているということ。
4. あとから入ってきたものが話しかけてきたので、自分も返事をしなければならぬということ。

問7 傍線部⑤「走り出でて去りぬ」とありますが、「今の者」がこのような行動をとったのはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 置いた餅を先に入っていた人に食べられたとわかったので、その人と争っても勝てそうにないと思ったから。
2. 置いた餅が食べられてしまったので、人を呼んでその「もの」と一緒に追い出そうと考えたから。
3. 置いた餅が消えてしまったので、餅を食べた「もの」を油断させるために一時的に外に出ようと思ったから。
4. 置いた餅が自分が気がつかないうちになくなったので、それを鬼が食べたと思って恐ろしくなったから。

問8 傍線部⑥「墓穴を出でて行きける」とありますが、男が夜明け前に墓穴を出て行ったのはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 逃げた男が大金の入った袋を置いていったのが気味悪かったから。
2. 逃げた男が様子をうかがっているかもしれないことを恐れたから。
3. 鬼の住んでいる墓穴にこれ以上とどまることが耐えがたかったから。
4. 雨がしだいに小降りになってきたので、旅を続けようと思ったから。

問9 傍線部⑦「むくつけし」とは「気味が悪くて恐ろしい」という意味ですが、男のどういうところに対して作者はそう感じたのですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. 正体がわからない相手に対して冷静に状況を判断して、最後は自分に損害もなく利益を手にした大胆な行動に対して。
2. あとから来た人物の力量が不明でも、自分の力を見せつけるようにして相手に敗北を認めさせた勇敢な行動に対して。
3. 鬼のような超自然の存在を最初から信じず、合理的に解釈することで危機を打開して生き延びた冷静な行動に対して。
4. 何もしないことで逆にあとから来た人物に対して恐怖感を与えて、その場から退却させた常識はずれの行動に対して。

問 10 この文章の内容にあてはまるものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1. はじめに墓穴に入った男は、後から来た人を襲って物を奪うよりは、姿を見せずにこわがらせておいて捨てていったものを取ろうと計画していた。
2. はじめに墓穴に入った男は頭の切れる者で、真つ暗な墓穴の中でも音によって後から来た人の正体を見破り、その者を追いかけることに成功した。
3. はじめに墓穴に入った男は、歩き疲れて腹が減り、何か物を食べたかったので、後から来た人が墓に住む神へのお供えとして置いた餅を食べてしまった。
4. はじめに墓穴に入った男は旅人だったために、墓穴が大変恐ろしい場所で、日が暮れると近隣の住民が誰も近寄らなくなることを知らなかった。